審判員派遣報告書

1	派遣事業名 全日本大学バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 2019/12/9（月）～10（火）
3	報告者名 仲地祥吾	4	派遣先 スフォルタアリーナ八王子　駒沢オリンピック記念総合運動公

5	大会概要　および　大会結果		
大会名称	全日本大学バスケットボール選手権大会	大会期間	2019年12月9日～15日
大会内容			
各ブロック予選を通過したチームによるトーナメント戦			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード		相手審判	ゲ　ー　ム　雑　感
1	12月9日	東京医療保健-桜花学園	U1	CC 長尾氏（東京） U2 佐藤氏（千葉）	終始、東京医療保健大学がリードし、勝利した。
2	12月10日	中央-名古屋経済	U1	CC 伊橋氏（長崎） U1 佐藤氏（神奈川）	試合の入りは一進一退であったものの、2クォーター以降は中央がペースをつかみ、勝利した。
3					

7　審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等

12月9日（月）　東京医療保健大学-桜花学園大学
〇PGC
ベーシックメカニクスの確認。チームの特徴について。
東京医療保健はビッグマンが二人。インサイドピックのプレーが多いので表と裏のプレーについて3人で協力すること。
桜花学園大学については情報は少なかったが、大型選手はいないようであったので、インサイドの守り方やリバウンドに対して、ベーシックメカニクスを基準にプライマリーがファウルテイクすることを確認した。

〇試合を振り返って
Lead …　ローテーションのタイミングをテンポよくする必要があった。トップ付近でガードがスティールされることが多く、ローテーション中にトランジションになった時を考えてしまい、躊躇してしまうことが多かった。どんな試合であっても、パイプエリアからボールが出たらローテーション開始→クイックパスまたはドライブが起きた際はmidを超えていたらローテーション、超えていなければバックペダルというベーシックに忠実であるべきだと感じた。
Center …　インサイドプレーヤーのカールプレーやリバウンドに対しては、プライマリーの意識を持って積極的に判定することができた。アングルの取り方を工夫したり、クロスステップを使うことでさらに余裕を持って判定ができるようになる場面をあったと思うので、今後さらに研究をしていきたい。
Trail …　ボールがバックコートからフロントコートに入っていくところで、すでにCenterがチェックインしているにも関わらず、チェックアウトできていない場面があった。ボールの場所、リードの動き、Centerの目線にもっと気を配り、自分のポジションを確立していかなければいけないと感じた。

12月10日（火）　名古屋経済大学-中央大学
〇PGC
ベーシックメカニクスの確認。チームの特徴について。名古屋経済大学には外国人留学生が在籍。

〇試合を振り返って
Lead …　前日の反省もあり、ローテーションについてはスムーズに行えた。コーナーのプレー（ショット）についてはもっと体をフラットにして捉えた方がよかったように感じる。インサイドプレーヤーが気になってしまっていたので、自分の役割や見るべき場所についてさらに徹底していかなければならない。
Center …　この試合は中央大学が常にオールコートディフェンスであったことや、リバウンドに対する外国人選手に対してのコンタクトなどが多かったため、Centerの役割が非常に大きい試合であった。試合の途中でそのことを三人で共有できたので、比較的きちんと役割分担をして判定に参加できたように思う。Centerは3POの生命線であるので、今後も引き続き意識していきたい点である。
Trail …　高い位置でのガードのディフェンスに対してもっとシビアにテンポセットするべきであった。試合の終盤までファウルの数が減らなかった要因は試合序盤でのテンポセットにあったように感じる。ガイドライン通りに徹底して判定をしていくことの大切さを感じた。

〇二日間を通じて
全国大会に来て感じることは、ベーシックの重要性である。今回も二日間ともに初めてクルーを組むメンバーであった。ベーシックメカニクスをはじめとする基本的な約束事ができていなければクルーとして成立しない。逆に、約束事がきちんと守られれていると、そこが困ったときの助けになることが多い。2or3やアウトオブバウンズ、チームファウルの確認については二日間を通して協力して確認することができた。3人で試合を担当するという意識を改めて確認することができた。今回の経験から得たことを県内に広げていきたい。